

エコアクション21

環境経営レポート

2023年度（2023年4月～2024年3月）



加藤設備工業株式会社
株式会社フジ企画

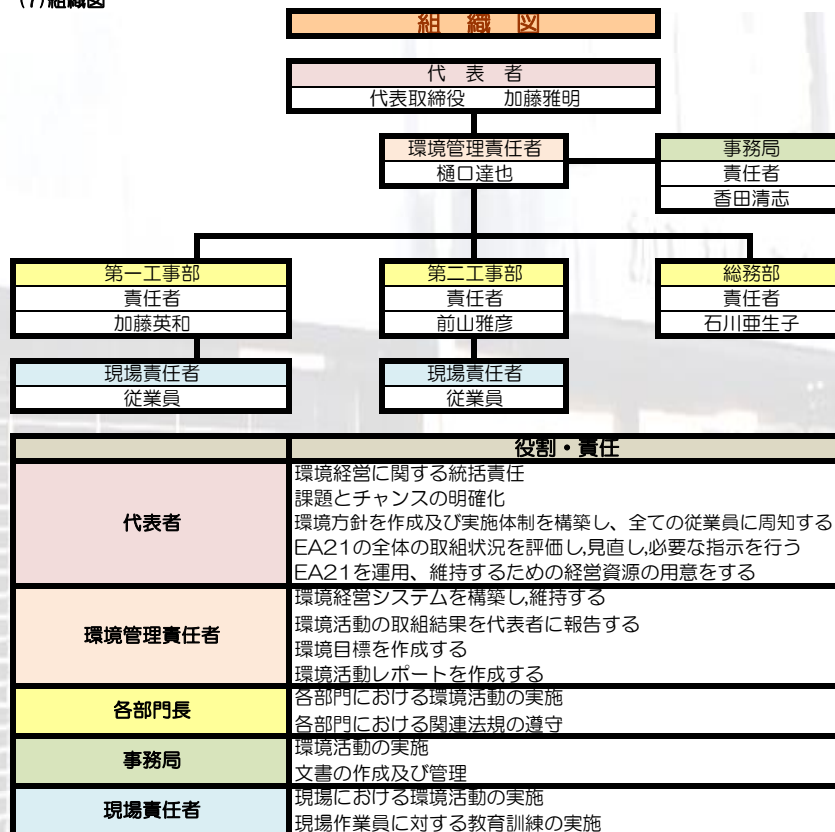
2024年6月6日発行

目 次

1.事業活動の概要	3
2.環境経営方針	4
3.経営における課題とチャンス	5～6
4.環境経営目標と実績	7
5.環境負荷の現状	8
6.実績値の年間推移	9～10
7.取り組み内容の実例	11～13
8.環境経営計画の内容及び取組結果の評価	14
8-2.環境経営計画の内容及び取組結果の評価と次年度の環境計画	15
9.環境関連法規への違反・訴訟等の有無	16
10.代表者による見直し記録	17～18

1.事業活動の概要

- (1)事業者名及び代表者名 加藤設備工業株式会社 代表取締役 加藤雅明
(子会社 株式会社フジ企画)
- (2)所在地及び連絡先
【本社】 〒192-0355 東京都八王子市堀之内2-1-15
TEL (042) 676 - 8610 FAX (042) 675 - 5054
【資材置場】 〒192-0355 東京都八王子市堀之内1030-1
- (3)環境管理責任者 樋口達也
- (4)主な事業内容 給排水設備工事、空調設備工事、一般土木工事、水道施設工事 ・ 認証・登録の範囲 全社全活動
- (5)事業規模(2023年度)
資本金 2,000万円(加藤)、5,000万円(フジ) 売上高 62,225万円(加藤)、22,616万円(フジ)
従業員数 15人(加藤)、9人(フジ) 敷地面積 398㎡ 延床面積 495㎡
- (6)その他 産業廃棄物収集運搬業
(加藤) 許可番号 第13-00-107314号 取得年月日：R5.11.25 有効期限：R10.11.24
(フジ) 許可番号 第13-00-105019号 取得年月日：R5.7.22 有効期限：R10.7.21
(加藤) 車両 ISUZU ハ王子400 セ 5092 3t ダンプトラック 積載量3,000kg 1台
(フジ) 車両 ISUZU ハ王子400 チ 1821 3t ダンプトラック 積載量3,000kg 1台
運搬実績 自社工事現場で発生する産廃のみ運搬 2023年度実績 239.9t
- (7)組織図



2.環境経営方針

基本理念

加藤設備工業㈱及び㈱フジ企画は、事業活動を進めていくにあたり、地球環境の保全が重要な課題の一つである事と認識をして、全社員が一丸となって事業活動のあらゆる面において、積極的に自然環境への負荷の軽減に取り組み、地球環境にやさしい会社づくりを目指します。



環境経営方針

当社は三多摩地域を中心として、主に管・土木・水道施設工事の工事を請負って事業活動を行っています。

この事業活動における環境への影響を理解し、全社員が協力をして以下の事項について自主的かつ積極的な取り組みを行い、環境経営の促進と継続的改善を推し進めていきます。

【行動指針】

①環境関連の法規を遵守し、地球環境の保全に努めます。

②地球環境の保全を推進する為、

以下の項目を管理重点項目と考えて事業活動に取り組みます。

- 1) 使用時間外の消灯及び区画分け等によるエネルギー使用量の削減
- 2) 水道使用量の削減（井戸水との併用）
- 3) 社内における事務用紙廃棄量の削減
- 4) 工事現場における建設機械のCO2排出量の削減
- 5) 事業活動に伴う産業廃棄物の搬出量の削減,再利用,再資源化
- 6) 環境に配慮した工法や施工の推進に努める

③この環境経営方針を掲示や資料で全社員に周知のうえ、

豊かで快適な地球環境づくりに努めます。

前回改訂：令和2年6月1日
改訂：令和6年4月1日

 加藤設備工業株式会社
代表取締役 加藤雅明
 株式会社フジ企画
代表取締役 加藤雅明

3-1.経営における課題

審査で確認された課題	
経営における課題 (事業上の弱み) (問題点等)	事業者の内部に起因するもの
	① 人材不足 現状で若手及び経験豊富な人材の採用が難しく、技術者及び管理の人材が不足。 ② 技術者育成に時間がかかる 一人立ちまでの時間を要する為 人材不足と併せての問題点となる。 ③ 事業形態の変化と環境経営目標の限界 10年以上の継続により目標値の大幅な低下と 事業形態の変化による実績値の変動で目標値 以上の削減が難しくなっている。
	事業者の外部に起因するもの
	① 社会情勢による影響 現状の社会情勢の弊害として、公共工事 の市場規模が縮小傾向にある為、 各発注工事への受注競争が激化している。 それに伴い、遠方の工事の受注による 実績値の増加が発生している。 ② 単価の上昇 労務単価や資材単価が上昇傾向にある。 ③ 現場の受注状況による影響 フジ企画は上記の受注競争の余波を特に受けやすい為 一定の実績値が見込めず、それを基にした 目標値や予想値の算定が難しい。

3-2.経営におけるチャンス

審査で確認されたチャンス	
経営におけるチャンス (事業上の強み) (有利な点等)	事業者の内部に起因するもの
	① 研修機会やサポートの充実 社員教育及び研修機会が多く、各社員の経験と知識が豊富で高いスキルを保有している為、サポートが万全の状態。 ② 設備の充実 CAD・OA機器・工事資材・車両・社屋等の保有設備類が充実している。 ③ 電子化の推進 書類のデータ化が推し進められており紙廃棄量の削減へとつながっている。 ④ 環境経営目標の考え方と評価方法の見直し 基準値の見直しや実績値に対する考察に重点を置き、現状維持が出来ていることや過去実績の優秀さも加味して評価する方針を推し進めていく。 ⑤ EA21事業範囲拡大による取組の見える化 EA21事業範囲拡大により、フジ企画の取組が表に見える形になる為、グループとしての取組の質の向上が期待できる。
	事業者の外部に起因するもの
	① 実績 東京都及び八王子市での多様な工事実績を有し、発注者からの信用と信頼を得られている。 ② 協力会社との連携 密な打ち合わせ等により作業要領がよく連携の取れた協力会社が増加。各社と良好な関係を築いている。

4.環境経営目標と実績

項目名	基準値※2	目標値		
		2023年度目標 (R5年4月～R6年3月)	2024年度目標 (R6年4月～R7年3月)	2025年度目標 (R7年4月～R8年3月)
1.二酸化炭素排出量削減 ※1	53.34 (t)	対基準年 2%削減 52.27 (t)	対基準年 2%削減 52.27 (t)	対基準年 2%削減 52.27 (t)
2.電力消費量削減	31,209 (kWh)	対基準年 2%削減 30,585 (kWh)	対基準年 2%削減 30,585 (kWh)	対基準年 2%削減 30,585 (kWh)
3.車両燃料消費量削減	(ガソリン)	対基準年 2%削減 11,723 (L)	対基準年 2%削減 11,723 (L)	対基準年 2%削減 11,723 (L)
	(軽油)	対基準年 2%削減 4,425 (L)	対基準年 2%削減 4,425 (L)	対基準年 2%削減 4,425 (L)
4.水道使用量の削減	123 (㎡)	対基準年 2%削減 120 (㎡)	対基準年 2%削減 120 (㎡)	対基準年 2%削減 120 (㎡)
5.産業廃棄物排出量削減	833.2 (t)	対基準年 2%削減 816.5 (t)	対基準年 2%削減 816.5 (t)	対基準年 2%削減 816.5 (t)
6.一般廃棄物排出量削減	380 (kg)	対基準年 2%削減 372 (kg)	対基準年 2%削減 372 (kg)	対基準年 2%削減 372 (kg)
7.紙廃棄量削減	423 (kg)	対基準年 2%削減 414 (kg)	対基準年 2%削減 414 (kg)	対基準年 2%削減 414 (kg)
8.環境負荷低減施工の推進 (定期勉強会の実施 1回/月)	1回/月	- 1回/月	- 1回/月	- 1回/月

※1) 二酸化炭素排出係数は東京電力2021年度の0.451 (kg-CO2/kWh)とする。

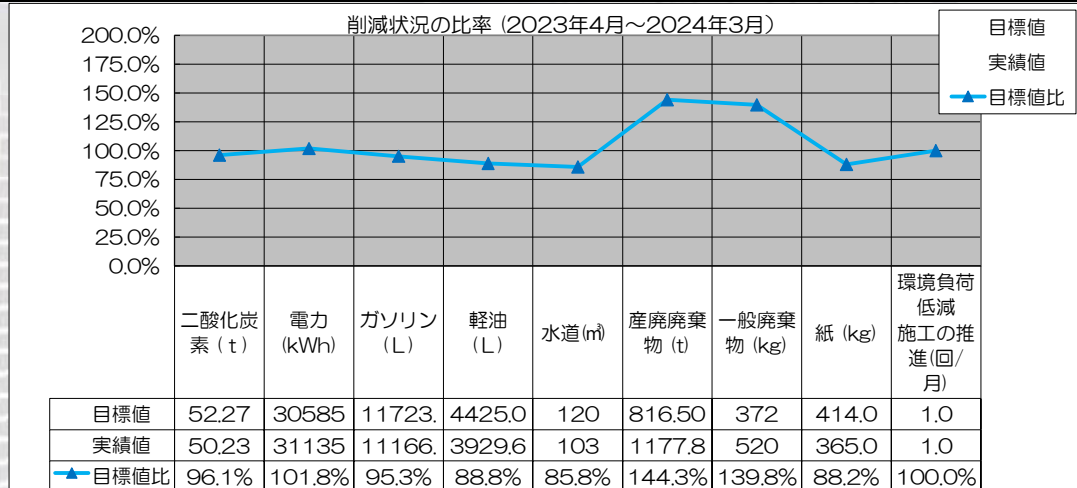
※2) フジ企画参入による計測・計量範囲の変更の為昨年度の実績値を採用する。(今回対象範囲 2022年度実績値)

※評価基準

- ◎：削減
- ：現状維持範囲
- ：詳細分析の結果問題なし
- ×：見直しを検討

☆2023年度の電力等使用量の削減状況・取組実績

項目	二酸化炭素 (t)	電力 (kWh)	ガソリン (L)	軽油 (L)	
目標値	52.27	30,585	11,723.0	4,425.0	
実績値	50.23	31,135	11,166.3	3,929.6	
目標値比	96.1% ◎	101.8% ○	95.3% ◎	88.8% ◎	
項目	水道 (㎡)	産業廃棄物 (t)	一般廃棄物 (kg)	紙 (kg)	環境負荷低減 施工の推進 (回/月)
目標値	120	816.5	372	414.0	1.0
実績値	103	1,177.85	520	365.0	1.0
目標値比	85.8% ◎	144.3% ●	139.8% ●	88.2% ◎	100.0% ○



5.環境負荷の現状

☆エネルギー投入量と二酸化炭素排出量

項 目		2021年度	2022年度	2023年度
購入電力	使用量 (kWh)	30,580	31,209	31,135
	エネルギー量 (MJ)	300,601.4	304,599.8	303,877.6
	CO2排出量 (kg-CO2)	14,494.9	14,075.3	14,041.9
灯 油	使用量 (L)	0	0	0
	エネルギー量 (MJ)	0	0	0
	CO2排出量 (kg-CO2)	0	0	0
ガソリン	使用量 (L)	10,806.0	11,963.1	11,723.0
	エネルギー量 (MJ)	373,891.1	413,923.3	405,615.8
	CO2排出量 (kg-CO2)	25,088.1	27,732.9	27,176.3
軽 油	使用量 (L)	4,388.0	4,515.9	3,929.6
	エネルギー量 (MJ)	165,415.5	171,604.2	149,324.8
	CO2排出量 (kg-CO2)	11,347.5	11,840.7	10,303.4
総エネルギー投入量 (MJ)		839,908.0	890,127.3	858,818.2
総二酸化炭素排出量 (kg-CO2)		49,876.08	53,336.72	51,521.55

※各年度の期間は、その年の4月から翌年3月までとします

☆一般廃棄物排出量

項 目		2021年度	2022年度	2023年度
紙 類	再生利用資源量 (t)	0.42	0.423	0.365
その他可燃ごみ	単純焼却廃棄物量 (t)	0.79	0.38	0.52
その他不燃ごみ	不燃廃棄物量 (t)	0	0	0

☆産業廃棄物排出量

項 目		2021年度	2022年度	2023年度
アスファルトコンクリート	再資源化量 (t)	1517.2	313.5	431.2
コンクリート	再資源化量 (t)	63.1	217.8	366.0
建設発生木材	再資源化量 (t)	0	2.2	4.41
建設汚泥	再資源化量 (t)	35	16.1	0
建設混合廃棄物	再資源化量 (t)	17.0	3.77	29.93
汚泥	再資源化量 (t)	0	0	12.3
廃プラスチック	再資源化量 (t)	4.4	9.5	7.88
金属くず	再資源化量 (t)	2.83	24.86	176.29
紙くず	再資源化量 (t)	0	1	1.95
繊維くず	再資源化量 (t)	0	0	0
廃油	再資源化量 (t)	0	0	0
石膏ボード	再資源化量 (t)	0	0	0
がれき類	再資源化量 (t)	1514.8	156.2	97.88
ガラスくず・陶磁器くず	再資源化量 (t)	0	0	50.0

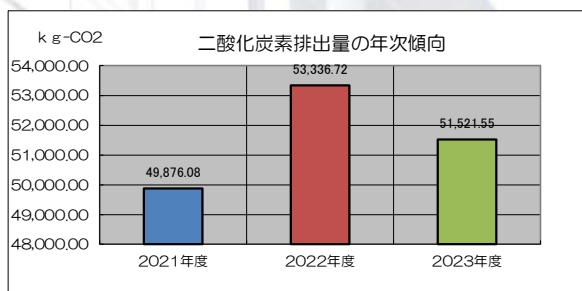
☆総排水量

項 目		2021年度	2022年度	2023年度
下水道	使用量 (m)	135	123	103
総排水量 (m)		135	123	103

6.実績値の年間推移

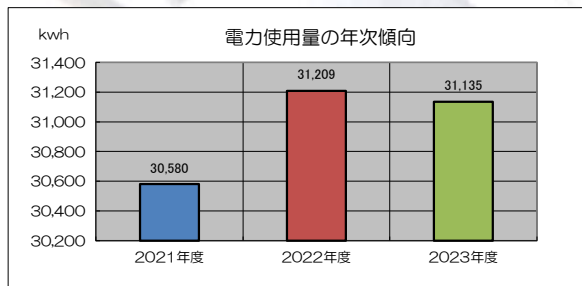
1.二酸化炭素排出量(kg-CO2)

年度	合計(kg-CO2)
2021年度	49,876.08
2022年度	53,336.72
2023年度	51,521.55



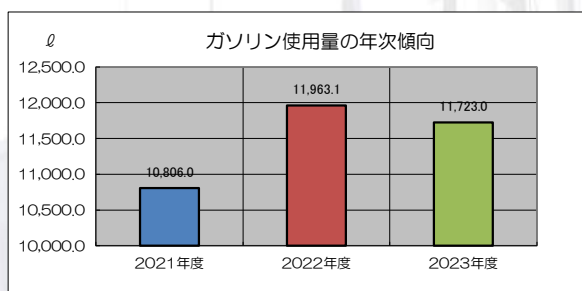
2.電力使用量(kwh)

年度	合計(kwh)
2021年度	30,580
2022年度	31,209
2023年度	31,135



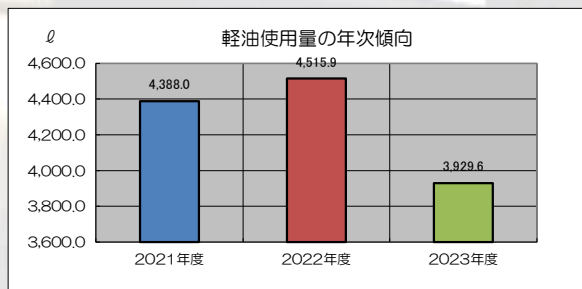
3.ガソリン使用量(L)

年度	合計(L)
2021年度	10,806.0
2022年度	11,963.1
2023年度	11,723.0



4.軽油使用量(L)

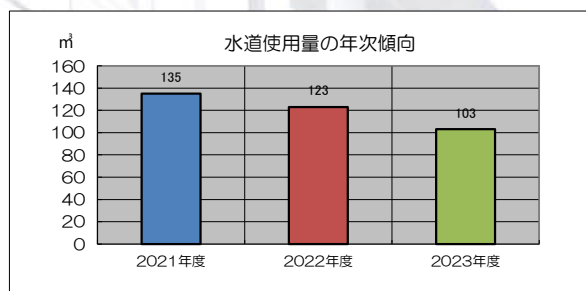
年度	合計(L)
2021年度	4,388.0
2022年度	4,515.9
2023年度	3,929.6



6.実績値の年間推移

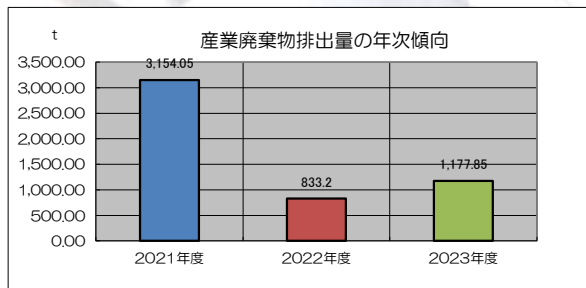
5.水道使用量(m³)

年度	合計(m ³)
2021年度	135
2022年度	123
2023年度	103



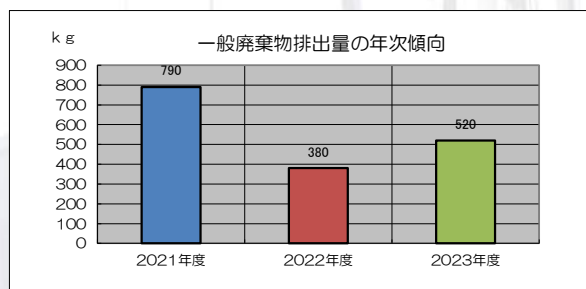
6.産業廃棄物排出量(t)

年度	合計(t)
2021年度	3,154.05
2022年度	833.2
2023年度	1,177.85



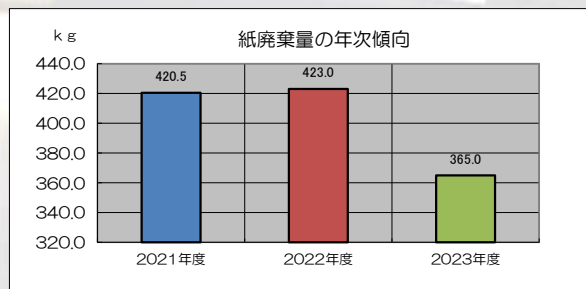
7.一般廃棄物排出量(kg)

年度	合計(kg)
2021年度	790
2022年度	380
2023年度	520



8.紙廃棄量(kg)

年度	合計(kg)
2021年度	420.5
2022年度	423.0
2023年度	365.0



7. 取り組み内容の実例

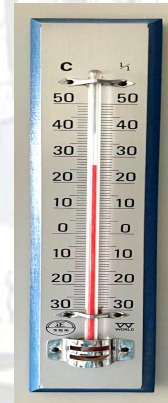
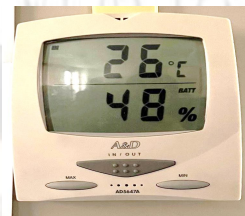
☆電気使用量削減の取組内容



共用部の
人感センサー式
スイッチ



社内照明をLED照明に更新済み。
消し忘れ防止の為、共用部をセンサー式スイッチへ更新。



不在・不要時の照明を消灯。
温度計による空調機の設定温度を管理。

☆水道使用量削減の取組内容



節水呼びかけの掲示による節水意識の向上を図る。

☆産業廃棄物排出量削減の取組内容



産業廃棄物の分別を徹底。
養生材等は再利用の為倉庫へ保管。

☆一般廃棄物・紙排出量削減の取組内容



コピー用紙の裏紙を使用し、紙の消費量を削減する。

☆環境負荷低減施工推進の取組内容



月に一回の環境への取組会議を行う。

8.環境経営計画の内容及び取組結果の評価

環境目標	環境活動計画の内容	取組	評価
1.電力消費量削減	不要時の消灯、電源OFF	○	○
	夜間・休日のPC機器等の電源を切る	○	
	空調機の設定温度を調整	○	
	使用していない部屋の空調は停止する	○	
2.車両燃料消費量の削減	制限速度の厳守	○	○
	アイドリングストップの徹底	○	
	オイル量・タイヤ空気圧の適正化	○	
	走行経路の適正化	○	
3.水道使用量の削減	節水意識の徹底	○	○
4.産業廃棄物排出量の削減	段ボール・鉄くず(有価物)等の分別を徹底する	○	○
	養生材等の再利用に努める	○	
	マニフェストによる適正処理を行う	○	
	発生材の3R促進	○	
5.一般廃棄物・紙排出量の削減	コピー用紙の裏面利用	○	○
	コピーミスの削減	○	
	書類の電子化	○	
	発生材の3R促進	○	
6.工事現場におけるCO2排出量の削減	最短経路の運転	○	○
	運転時に過剰な負荷をかけない	○	
7.低騒音・低振動機器の使用	機器リリース時に低騒音なものを選択する	○	○
	機器リリース時に低振動なものを選択する	○	
8.環境負荷低減施工の推進	環境への取組会議を行う(月1回)	○	○
	環境負荷の少ない材料の使用を促進する	○	

評価基準 ○：良好 △：多少の改善点・問題点有り ×：要注意・手段の見直しを検討

8-2.環境経営計画の内容及び取組結果の評価と次年度の環境計画

☆取組結果に対する評価

1) 電力消費量の削減

計画に基づき確実に実行でき、目標を達成することが出来た。
次年度も現状維持以上を継続する。

2) ガソリン消費量の削減

計画に基づき確実に実行でき、目標を達成することが出来た。
次年度も現状維持以上を継続する。

3) 軽油消費量の削減

計画に基づき確実に実行でき、目標を達成することが出来た。
次年度も現状維持以上を継続する。

4) 水道使用量の削減

計画に基づき確実に実行でき、目標を達成することが出来た。
次年度も現状維持以上を継続する。

5) 産業廃棄物排出量削減

計画に基づき確実に実行できた。目標値の超過は重量廃棄物が多くなる舗装や
改修工事を受注した為である。前述の為、是正は不要とし良好と判断した。

6) 一般廃棄物排出量削減

計画に基づき確実に実行できた。目標値の超過は受注現場の施工完了や近距離の現場受注による
事務所滞在者が増加した為である。前述の為、是正は不要とし良好と判断した。

7) 紙排出量削減

計画に基づき確実に実行でき、目標を達成することが出来た。
次年度も現状維持以上を継続する。

8) 工事現場におけるCO2排出量の削減

計画に基づき確実に実行できている。次年度も現状維持以上を継続する。

9) 低騒音・低振動機器の使用

計画に基づき確実に実行できている。次年度も現状維持以上を継続する。

10) 環境負荷低減施工の推進

計画に基づき確実に実行できている。次年度も現状維持以上を継続する。

☆次年度の環境計画

- 1) 電力消費量の削減
- 2) ガソリン消費量の削減
- 3) 軽油消費量の削減
- 4) 水道使用量の削減
- 5) 産業廃棄物排出量削減
- 6) 一般廃棄物排出量削減
- 7) 紙排出量削減
- 8) 工事現場における
CO2排出量の削減
- 9) 低騒音・低振動機器の使用
- 10) 環境負荷低減施工の推進

不要時の消灯、電源OFFに更に注意して削減する。
制限速度の順守・アイドリングストップを徹底する。
制限速度の順守・アイドリングストップを徹底する。
節水呼びかけの掲示等により日常的な節水意識の向上を図る。
分別の徹底・養生材の再利用に努める。
コピーミスの削減・用紙の裏面利用を徹底する。
コピーミスの削減・用紙の裏面利用を徹底する。
最短経路の走行・過剰な負荷をかけないようにする。

低騒音・低振動機器の使用に努める。
環境への取組会議を継続する。

9.環境関連法規への違反・訴訟等の有無

関 連 法 規	遵 守 項 目	遵守状況
廃掃法	行政への収集運搬業の許認可更新、マニフェストの交付、回収、保管	遵守
騒音規制法	特定建設作業の届出 区域、時間帯での騒音規制基準の遵守	遵守
振動規制法	特定建設作業の届出 区域、時間帯での振動規制基準の遵守	遵守
建設リサイクル法	特定建設資材の解体、分別及び再資源化の促進	遵守
八王子市下水道条例	排水設備の設置基準 八王子市の排水設備工事指定店としての許諾	遵守
自動車Nox,PM法	Nox、PMの排出規制適合車の使用 搬入車両の排出基準への適否を確認	遵守
浄化槽法	浄化槽の保守点検及び清掃の実施 指定検査機関の水質検査を受検(年1回)	遵守
フロン排出抑制法	第一種特定製品の簡易点検(3か月に1回以上) 第一種特定製品の点検(3年に1回以上)	遵守

関連法規の違反はなく、関係機関からの指摘及び訴訟は過去3年間一切ありません。
又、地域住民からの苦情もありませんでした。



10 代表者による見直し記録

☆見直しの為の情報

1) 環境経営目標・環境経営計画の達成状況と評価

環境経営計画での取組評価の結果

環境経営目標については現状維持以上の成果を継続できていると判断できる。

2) 環境関連法規等の遵守状況

関連法規は違反等なく遵守されている。

3) 問題点の是正及び予防処置の状況

事業の拡大による環境経営目標設定方法の変更等で目標値を超えることがあるが、現場の実態によるものなので是正の必要は無し。

4) 外部からの苦情・要望・対応状況

外部からの苦情及び要望については特になし。

5) 実施体制の適切性、妥当性及び有効性

継続して社員1人1人の意識の向上が図れていると思われる。

今後も目標の現状維持以上の達成を継続する。

☆情報提供上の総評・改善のための提案

事業の拡大による株式会社フジ企画の参入により全体の細かい見直しを行うことが出来た。

環境経営目標の設定方法の変更による新たな問題点も確認されたが、現場の実態によるもので、是正を要するものは現状確認されなかった。

今後は現状を維持しつつも、細かい見直しにて取組の精度を高めていければと思う。



10 代表者による見直し記録

☆代表者による見直しの内容（次年度）

1) 環境経営方針

事業の拡大に伴い、新規の問題点等が表面化してくると予想される為、問題点に対して都度見直しを検討する。

2) 環境経営目標

目標値の設定についても事業の拡大に伴う問題点が発生すると予想される為、都度の見直しを検討する。

3) 環境経営計画

上記と同様に問題点に合わせ、都度の見直しを検討する。

4) 実施体制

事業の拡大前より実施体制は整備されている為、取組を継続する。
新規の社員が増えてきた為、取組概要の周知を確実に行う。